

平成29年度 第2回 岡山県食の安全・食育推進協議会
議事録

平成30年2月16日

発言者	発言内容
議事(1)	「岡山県食の安全・食育推進計画」(案)について
生活衛生課 健康推進課	<p>「岡山県食の安全・食育推進計画」(素案)に対し、第1回協議会及びパブリックコメントでいただいた意見を踏まえ、追加、修正した点について説明。</p> <p>【参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第1回岡山県食の安全・食育推進協議会での主な意見と県の考え方 ・「岡山県食の安全・食育推進計画」(素案)に対する県民意見等の募集結果について ・岡山県食の安全・食育推進計画(案)
	各課からの追加説明 なし
	質疑・提言
座長	<p>パブリックコメントについての説明で、遺伝子検査の活用という言葉がありました。これは原因生物を検出することでしょうか。遺伝子検査というのは人の遺伝子検査に使われる言葉であると理解していたのですが。</p>
生活衛生課	<p>食中毒や感染症の検査の場合は、原因物質ですから、微生物やウイルスの遺伝子検査のことを指します。</p>
座長	<p>それは、今インターネット等で見ても遺伝子検査と本当に定義されていますか。生物の検出や原因物質の検出と書かれているのではないかと思います。検査という言葉で定義しますか。</p> <p>要するに、遺伝子検査という言葉は、人の遺伝子を調べてそれに対応できる人というのが今の常識的な話で、ここでそのような書き方をすると、食中毒にかかりやすい人であるとか、そのように捉えられるのではないかと思います。</p>
生活衛生課	<p>遺伝子検査と記述をしている内容については、原因物質の中の遺伝子を検査して、原因物質を特定するという意味で記述しておりますが、そのような捉えられ方をすることを想定しておりませんでしたので、どのような書き方が正しいか検討させていただきます。</p>
座長	<p>迅速に、遺伝子を使って何が原因かを特定することなのです。最近、自分の遺伝子はどうかという考え方をする人が増えていますので、間違った捉えられ方をしないようにしていただければと思います。</p>
委員	<p>前回の協議会で、食育の目標値の項目を増やしてはどうかと提案させていただきましたが、今回反映されていないのは、どういった</p>

	状況からか教えてください。
健康推進課	食育の目標値については、国の目標値を見ながら県の目標値としても入るものがないかと考え、各課に問い合わせたりしましたが、結局、目標となるような現状値がなかったという状況でございます。
委員	消費者や子どもの団体に伝えられるような計画になっていて良いと思っていたのですが、この計画は、自治会や子どもの団体の所属する生涯学習施設、公民館等への連絡体制はどのようになっているのでしょうか。公民館活動の中で高齢者や子どもたちの調理が行われていたりするのですが、そのような所への周知の方法、連携等はどのように考えているか教えてください。
健康推進課	主に、食育の実施主体は市町村となっています。市町村にも栄養士や、栄養改善協議会、愛育委員連合会等の健康づくりボランティアがおりますので、保健所を巻き込んでいただいて、市町村と一緒にそのような活動が地域の中でできればと考えております。
座長	県としては、市町村にお願いしていくというスタンスということでしょうか。
健康推進課	県としては、人員が少ないこともあり、直接的に住民の方と対面していくことは中々難しいですが、市町村の方へ様々な情報を提供したりすることはできると考えております。
委員	保健所へ行くところのような情報があるのですが、市町村の生涯学習課からは情報が入ってきません。公民館等は生涯学習課と繋がっていていいなと思うことがよくあるので、是非ともそのような繋がりを市町村にお願いしていただければと思います。
健康推進課	こちらからもお願いをしますが、是非、住民の方からも保健所や市町村の健康づくり課へそういった声かけをしていただければありがたいと思います。
座長	住民と自治体双方で取り組んでいただければと思います。 前回からパブリックコメントも含め、適切に修正いただいたということで、この原案については、少し文言の見直しをということもありましたが、このままの形で進めていくということでしょうか。 前回は概要版が示されていましたが、今回はこの形で出すということでしょうか。今のHPには、概要版と詳細版が掲載されていますが、今回は最終的にどのように掲載される予定でしょうか。
生活衛生課	今日の審議の内容等を踏まえ、3月のできるだけ早い時期に最終版を取りまとめたいと考えております。 最終的にHPに掲載する際には、概要版と詳細版の2つを掲載する予定でございます。

座長	<p>これまでの計画とどこが変わったのかについては、あまり考えなくてもよいのでしょうか。こういった計画には、以前のものと比べてどのように発展したのかがあったりすると思うのですが、その部分は概要版で適宜分かるように、こういったところが過去の5年間から今回の5年間で変わりますというような、全体を見るというよりは今後の5年間を強調するようなことがあればと思ったのですが。コラムが沢山入っているので、そこを見ていただくというのはかなり意味があるのではないかと思います。</p>
生活衛生課	<p>いわゆる新旧対照表のような形で新しい事業や変わった部分を示すことは予定しておりません。新しくできたものの概要版と詳細版が掲載されるということでございます。</p>
委員	<p>食育の部分について幾つか誤植があったのでお話をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.66 ①人と人をつなぐ の2行目 困むことよって→困むことよって ・ p.78 ままかり料理 の項目1段落目 1マスずれている ・ p.88 5行目 関心をも持って→関心を持って
健康推進課	<p>修正させていただきます。</p>
座長	<p>それでは、原案については、ほぼこの形で良いということと、一部修正が入るということで、最終的には改めて示されるということによろしいでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
議事(2)	<p>その他(リスクコミュニケーションの推進について)</p>
生活衛生課	<p>これまで実施してきた岡山県のリスクコミュニケーションの取組、課題について説明。今後の事業展開への意見、協力要請。</p> <p>【参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年2月8日事務連絡 リスクコミュニケーションの推進に関するご意見について
	<p>質疑・提言</p>
座長	<p>委員の皆様が所属している団体で協力可能なことや、こんな方法があるのではというようなご意見があれば一言ずつお願いします。</p>
委員	<p>新聞の記事として、リスクコミュニケーションのイベントを情報発信していくことはすぐにイメージできる協力活動であると思います。</p> <p>リスクコミュニケーションの活動自体は10年以上になるということですが、県としてはリスクコミュニケーションという言葉自体を普及したいのでしょうか。それとも個々の取組を通して最終的に食の安全を確保するという目標に到達すれば良いのでしょうか。</p>

	<p>うか。というのも、リスクコミュニケーションという言葉自体が報道の中で登場することが少なく、「食の安全の確保ねらいに」というような書き方をしてきました。その中でも力を入れているリスクコミュニケーションという言葉の普及したいという思いがあるのかということを確認したいところです。</p>
生活衛生課	<p>まず、目標としては、リスクコミュニケーションはあくまで最終目標を達成するためのツールの位置付けと考えております。県としては、食の安全・安心を確保するための一つの手段として位置付けて現在まで事業を実施して参りました。これは今後も変わることはないと考えております。</p> <p>実は、県民意識調査を行っているのですが、リスクコミュニケーション自体の認知度が低いという結果が出ております。これは、周知に十分努めていなかった県の責任もあるかと思いますが、リスクコミュニケーションをアピールして認知度を高めていくということも今回の計画の目標にしておりますので、そういった意味でご協力いただけることがあれば是非お願いしたいと思っております。</p>
委員	<p>今までは「食の安全の確保ねらいに」というような表現が枕詞にあったと思いますが、今後は「リスクコミュニケーションを進めていくことをねらいに」等、結び付けていく書き方があるか検討していきたいと思っております。</p>
座長	<p>リスクコミュニケーションというと、どうしても一般の人は防災の方を考えられるので、食の安全・安心がリスクコミュニケーションと繋ぐのはかなり難しいかもしれないと思われました。食の安全・安心にもリスクとベネフィットがあるということをいかに説明していくかだと思います。サリン事件などでもリスクコミュニケーションという言葉が出ておりましたので、どうしてもインパクトのある方を一般の人は思っておられるのではないかと思います。</p>
委員	<p>国でも BSE 発生以降、食品安全委員会を中心にリスクコミュニケーションの促進に取り組んでいます。当初はリスクコミュニケーションという言葉も普及しましたが、10年も経つと恐らく岡山県に限らず全国的にこのような状況になっているのだと思います。岡山県では今まで様々なご苦労があったと思いますが、農政局においても、今後も現場で行うリスクコミュニケーションに関する活動に対して、可能な限り協力していきたいと考えています。</p>
委員	<p>「検定 - 晴れの国おかやまの食 - 」というのは、平成19～21年度に3年間実施され、それ以降は、受験生の減少等様々な事情もあったのか実施されなくなり、現在は、成績上位の方々がリスクコミュニケーターとして、地域単位の小規模な意見交換会等をしているということで、10年経過したのだなと実感しました。</p>

	<p>岡山県立大学で検定が実施されていたこともあり、栄養学科の学生に受験を呼びかけておりましたので、22年度以降2～3年間は「今年の検定はないのですか」という質問を受けておりました。恐らくその3年間でリスクコミュニケーターとして登録した学生もおりますし、或いはその後大学で行われたサイエンスカフェ等のいわゆるグループディスカッションに協力させていただいた記憶もありますので、地道にされていることはよく存じております。確かに、学生や地域の方に声をかけて、100人単位で話をすると、「話は聞いた」「聞いたことはある」というようなところで止まってしまって、グループディスカッションをしてもらった方がどういったことを考えて、どういったことを知りたいか分かると思うのですが、もう少し掘げていく形で考えていかないと、今30歳前後の元学生であれば、そのような取組をしたなど覚えていると思うのですが、現在は、リスクというと津波の時に食べ物をどう確保するのか、地震の時にどうするのかといった連想が中心になっています。食品に関するリスクについては私達も様々な取組をやっているつもりですが、県単位でもやっていただきたいと思っておりますし、それについて協力していきたいと思っております。現在の学生が、「検定－晴れの国おかやまの食－」を10年前にやっていたようなことと思っていることが少し残念に思います。</p>
委員	<p>リスクコミュニケーターの育成や開拓が大切なのではないかと思います。10年も経つと、活発にしておられた方の年齢が高くなって辞めたというようなこともあると思いますので、是非もう一度、従来のやり方でやるとすれば、食の検定を実施してリスクコミュニケーターになっていただく方を作って、新しい力を捕らえていくというようなことが必要なのかなと思います。</p> <p>それから、育成についてですが、食の安全というと大変レベルの高いことを扱うので、研修であるとか、大切な情報が手に入りやすいようにしていく必要がある気がします。その一つとして、県内で食の安全に関する講演会等が実際どれくらいあるか分かりませんが、大学等で公開講座を結構な頻度でしていたり、行政や消費関係の団体の方もしていたりすると思います。そういった勉強や研修の場をリスクコミュニケーターの方に提供して、意欲のある方に参加してもらってはどうかと思います。講演会等の人集めは大変ですが、リスクコミュニケーターのように食の安全に関心を持っている方は大変貴重な存在だと思いますので、そういった方に参加してもらえば講演会等も盛り上がるのかなと思います。</p> <p>もう一点、食の安全サポーターというのがありますが、こういった団体とリスクコミュニケーターとの接触が今まであったのか</p>

	<p>なと思いました。もし、今までないのであれば、そういった機会も大切な気がします。研修の場になるし、リスクコミュニケーターのレベルアップにもなると思います。</p>
委員	<p>消費者の立場から活動してきて、是非このような情報を生活者に届けたいなと思いました。先ほども申し上げましたが、公民館活動の中で、生涯学習等の登録講師はいるのですが、食の安全に関する講師は登録されていません。公民館活動では、勉強したい人が集まって講師を探す形になっているので、そういったところにリスクコミュニケーターの方が登録してくださっていて、こんなことができるというような情報をいただくと、講師が欲しいところがありますので、是非とも生涯学習と繋がっていただけるとこういうことは繋がっていくと思います。公民館の調理室に平気で段ボールを持ち込む方もいて、知っている人がいれば伝えることができるのですが、館を管理する人でさえもその辺りがよく分かっていない場合が多いです。公民館勤務者の研修に来ていただくとか、そちらにも裾野を広げる活動をしていただくとありがたいと思いました。また、公民館等を利用してリーダーの育成もあちらこちらでやっていただけると、岡山で何かあっても中々行けません、近くであると声をかけることもできますし、あちらこちらで講座等の研修の機会を作っていただくとありがたいと思います。</p>
生活衛生課	<p>リスクコミュニケーターを最初に養成した時には、検定の上位合格者を基準として選んで登録させていただいたのですが、もう一つの基準として、県内各地に配置ができるという考えで最初に登録させていただきましたので、恐らく県北方面にも何人かいらっしやると思います。講師として適任の方がいらっしやればお話を進めさせていただければと思います。この方々は、最初の数年間は話を上手く進めるスキルも研修の場で学んでいただいておりますので、上手く進行される方もいらっしやるかと思います。</p>
委員	<p>何年か前に視察型研修会に参加したことがあります。食の安全・安心については日頃から気をつけておりますが、研修会に行っただけで終わってしまっていました。行ったことについては、皆に周知していかなければならないと思っております。栄養改善協議会とタイアップしながらこのようなことに取り組んでいるので、リスクコミュニケーターとまではいきませんが、何か協力できることがあればしていきたいと思います。</p>
座長	<p>リスクコミュニケーターとわざわざ言わなくても、そういうことをやっていただけの方で良いのかなと思います。講習会を受けたらリスクコミュニケーターとかではなく、愛育委員さん等がよ</p>

	<p>く知っておられることを周りに伝えていくだけでもリスクコミュニケーションは行われているので、こういうことがあるというのを引き上げればかなりの数になるのではないかと思います。もちろん、公民館活動の中で話をされる方もいらっしゃると思いますので、こういう話をしなければならないということではなくて、ちょっとしたことを話すだけでもリスクコミュニケーションを増やすことになるのではと思いました。</p>
委員	<p>ほとんど一消費者の立場で、リスクコミュニケーションという言葉も今回初めて聞きました。私達は労働組合の団体ですから、何かできることはないかと考えたところ、私達の組織の良いところはネットワークと規模だと思います。故に様々な縛りはあるのですが、広報活動を通じて情報を伝達していくことはある程度できるかなと思います。個人的には、地域の中で活動していくのは当然必要なことだと思いますが、やはり行政として何か団体とコラボレーションしていく等、手伝ってくれるところを探すことが必要かなと思います。できるかどうかは別として、私達は毎年5月にメーデーという集会をしています。各組織が出店をして様々なことをしています。そのようなブースの中で啓発活動をされている方もいらっしゃいます。そういったチャンネルを持つのであれば、子どもも沢山来場されるので、そこに手洗いチェッカーを置いておけば興味を持ってくれるかなと思います。言葉を覚えてもらうことも必要でしょうが、馴染んでいただく場を作ることができれば理想形かなと思いますので、そういったところで少しでも関わっていただけるとと思います。</p>
座長	<p>そういったイベントでやっていただけるのは非常に良いことだと思います。</p>
委員	<p>リスクコミュニケーションという言葉自体を中々知り得なかったので勉強不足だったなと思います。</p> <p>県が登録しているリスクコミュニケーターの方々は何名くらいいらっしゃるのでしょうか。</p>
生活衛生課	<p>220名程度です。</p>
委員	<p>結構な人数がいらっしゃるのですね。私は学校関係者なので、学校の中では給食が子供たちにとって一番食に関わる部分だと思っております。給食は、食材を納入する業者と調理する方がいらっしゃいますので、このリスクコミュニケーションということを学校給食の中で掲げていこうと思えば、まず納入業者に対しては、窓口として県の学校給食会を活用しながら連携して、納入業者とこういった活動をしていくことは大変意義があると思います。調理する調理員や栄養士に対しては、例年夏頃にそれぞれの機関で講演会等を催しておりますから、講師としてこのようなことをや</p>

	<p>っていることを啓発していくことは大変有意義であると思います。</p>
委員	<p>私共の会員の大半が給食管理に従事しております。給食管理というのは、リスク評価をしてリスク管理をきちんとして給食を提供しているわけですから、日々リスク評価、リスク管理をしているのですが、喫食者に対して、こんな風にリスク評価、リスク管理をして給食を出しているということをコミュニケーションといいますか、これだけやっているということを出すことができていないと思います。そのため、一生懸命やっても加熱しすぎて美味しくないと言われたりします。学校では、子どもさんやご家族の方に対して、こんな風に給食を作って、これだけ衛生管理をして考えているということを年に1～2回はお話するチャンスがあるかもしれませんが、それ以外のところでは、喫食者に対してこういうことは言っていないと思います。その部分をもう少し拡げていく、それをリスクコミュニケーションだと言われると二の足を踏むのかなと思います。日々やっている業務をきちんと伝えていくことが私共としては必要なのかなと思います。</p> <p>もう一点、健康おかやま21を中間評価して第2次計画を作っていると思いますが、それも健康をつくっていくというもので、岡山県食の安全・食育推進計画も健康づくりというのが一つありますので、お互いの計画がバラバラに走るのではなくて、連携を取りながらお互いの事業を展開していただくとありがたいと思います。</p>
座長	<p>恐らく栄養士会がやっておられること自体は、リスクコミュニケーションをやっておられるので、それを県として、こういう活動がリスクコミュニケーションの一つですとだけ言っただけでいいのかなと思います。先ほども申し上げましたが、リスクコミュニケーターが話して小さいところでコミュニケーションをとることだけではなくて、日頃されている各所の活動そのものがリスクコミュニケーションの拡がりを見せている、それをリスクコミュニケーションと分かってやっておられるかは別として、まとめてみると様々なところでやっているというのを県の方で拾っていただいたら良いかもしれませんし、必要であればこういうことがリスクコミュニケーションではないでしょうかと言っただけなら良いのかなと思います。</p>
委員	<p>私達の団体は、BSE 以来、リスク分析を重ねてというのが日常の仕事になっていますが、事業主という面と消費者団体という面の両方がありますので、その関係性を上手に持っていくというのが非常に大事で、ある時期は風評被害に随分悩まされました。テレビや報道で一旦出してしまうと、いくら一生懸命言っても言い訳</p>

	<p>のようにしか聞こえないというようなことで苦労しましたが、そういった中で食の安全総合政策というのを持っておりますので、それを定期的に改訂しているというのが今の状況です。リスクコミュニケーションという言葉も総合政策を作った少し後には随分流行ったといたしますか、何でもリスクコミュニケーションと言っていた時期がありますが、今はその言葉自体の認知は少なくなっているかもしれません。カタカナ言葉というのは、流行る時には流行りますが、その内容自体を伝えるのは難しいというのがあります。</p> <p>それから、特に地産地消の商品を強化しようということがありますので、産地の視察ですとか、生産者が作業をしている中でのご苦労であったり、交流というのは評判が良くて、そちらについては人の参加が増えている状況かと思えます。</p> <p>リスクコミュニケーターについても提案をしたことがあったのですが、私共の主体となっている組合員さんが大体1000人くらいいらっしゃって、その方々がどんなことに興味を持っているかによって全体がある程度決まっていくという側面があります。そういう方々はあらゆることに興味があるので、あまり縦割りにすると重複してきてしまいます。従って、そういうことに興味があっても中々物理的にも参加しにくいという側面もあるのかもしれませんが。現在の私共の組合員さんの興味というのは、食育にシフトして行って、科学的な安全や気分的な安心というのは割と当たり前ということでそういう信頼感はできているのですが、次世代を考えたときに、本当にそれが今後の食の安心に繋がるということで食育の興味というのが増えているかもしれません。そこまで全部入るのかということと微妙なところがありますが、そういった観点からやっていくと、拡がりや興味というのも進んでいくかもしれないと思います。様々なご案内をいただいた中で、積極的に組合員にも案内をしていきたいと思えます。</p>
座長	<p>様々な意味で経験を積まれて、消費者の観点からだけではなくて、ご自身の分析もされていて、私のやっている会にも時々来ていただいて食の安全・安心の話をしていただいている中で、組合員さんはレベルが高いというか、分かっておられるのをどう伝えていくかということなので、やっておられることはリスクコミュニケーションの内容が含まれているだろうと思います。その辺りのリンクをどうするかということのも大事かもしれません。</p>
委員	<p>リスクコミュニケーターの方の登録が、晴れの国おかやまの検定を受けた方というのを伺って、認識不足でしたが、この方々の地域での拡がりというのか、県でどんな地域の方がいらっしゃるのか、早く言えば名簿も全然知りませんでした。この地域で皆さ</p>

	<p>んにご指導いただきたいというような場合にはどのような手続きをすればいいのかも含めて知りたいと思います。それから、リスクコミュニケーターの方の増員といいますか、やっていきたいという人にこういった形で声かけされるのか、もっと人数を増やしていくのかということも分からないところがありました。</p> <p>私共は消費生活ということで、日頃から食の安全には気をつけておりますが、地域の食材を自分で手にかけて食するというのが毎日の生活になると思いますが、消費生活では各自治体にも消費生活相談員というのがいらっしゃると思いますが、そういったサポーター的な方が各市町村の方にいつでも相談できればもっと拡がるのかなと思いました。啓発活動というのは、もっと様々な地域で呼びかけというか必要だと思しますので、県から市町村へ声かけが必要と思います。</p>
生活衛生課	<p>リスクコミュニケーターが200名強程度いらっしゃいますが、この方々のリストについては公表しておりません。地域で何かイベントをやりたい場合は、生活衛生課の方にお問合せいただいて、課の方で調整させていただいた上で、良いマッチングができる方があればご紹介をさせていただくということは可能と考えます。それから、リスクコミュニケーターの方の増員、今後どうするのかというお話ですが、実は、今リスクコミュニケーターの方で、活発に活動されている方は200名強の中で非常に少ないという状況ですので、これを増やすと増えるのか、名前だけの人数が増えてしまうこともありますので、現時点では増やすということは考えておりません。今登録されている方をもう少し活動していただけるようなサポートを県としてやっていきたいと考えております。</p>
委員	<p>私は生産者の代表として来させていただいております。食の安全・安心については、生産する方は当然の義務と感じております。先ほどもありましたが、風評被害が出ると、農産物が売れなくなるということがありますので、それについては十分注意しています。岡山県についても、食の安全・安心については、生産工程管理というGAPで、今までは農薬、肥料等の記帳等を中心に始めていましたが、最近では、作業環境の安全性も含めて一步上がったGAPにも取り組むというところがありますし、最高の産地はグローバルGAPをとった産地もございます。今後の動きとすれば、東京オリンピックがあつて、国の政策で、高いGAPをとらないと買わないというような生産の仕組みがありますけれども、農家の方については今後も作業が増えてくる中で苦勞があり、それに耐えながらやっています。そういった中で一番大きな仕組みの違いは、農産物については、私達は安全・安心なものを提供していると思</p>

	<p>っていますが、最近ではキャベツが高いというのは、10月の台風の影響ですから、全国的にできていないからです。それから、先ほどもありましたが、家庭内調理をしていただければいいのですが、ほとんどが業務用、加工用の千切りキャベツを買われていると思います。こういう業者は大半が国産というかもしれませんが、急に輸入品に変わってくることもあります。岡山県としては、今後も業務加工用の野菜を作りながら、安定的な供給をしていこうという取組を山陽新聞等で公表いただいています。是非とも岡山県の農家の方を応援していただけるようにと思います。農家の方はきっちりと研修を受けてやっておりますので、今後ともよろしく願います。</p>
委員	<p>食育の推進については、以前もここで話しさせていただきましたが、各地でお魚料理教室を年に5～6回開催しております。また、食の安全については、代表的なものでいうと、牡蠣でHACCPをやっております。これは、生産者や漁場の他、その牡蠣の細菌数などが分かるというものです。次に、リスクコミュニケーションについて、岡山県の牡蠣生産で発生したことを例にとりますと、生産量は全国で第3番目と比較的多いこともあり、過去には牡蠣でノロウイルスが検出されたことがあります。その年に検出されたのは本県だけではないのですが、東京の一部大手量販店では取扱いを中止するなど、全国的に甚大な被害を出しまして、当然単価も全国的に大きく下がりました。よく考えてみると、その当時、ノロウイルスの原因として特定できる食品は牡蠣しかなかったもので、他の多くの原因は不明となりました。そこで、ノロウイルス＝牡蠣ということになり、風評被害に繋がったと考えておりますので、リスクコミュニケーションというのが非常に大切だと思っております。</p> <p>なお、ノロウイルスの分析は難しく、食中毒に指定されたのはそんなに古くないということですが、この度は、ノロウイルスの迅速な検出・検査の実用化といったようなお話もあったと思います。そういったことを県として消費者に伝えていくことも重要であると思います。また、牡蠣のノロウイルスは加熱すれば大丈夫という話がよく出てきますが、逆に言うと、やっぱり牡蠣は危ないということにも繋がりがねません。要するに、正確な情報をきっちりと伝えることができれば、風評被害ももう少し防げるのかなと思います。</p>
座長	<p>それぞれの立場から重要なことを言っていたと思います。検査の話が出ましたので私の率直な意見を言いますと、人に対してはお金を払いますので、ノロウイルスについても、人に対する検査キットはものすごく進んでいると思いますが、農産物等</p>

出たときにそのものをどうやって検査するかについてはお金がかかるのだと思います。要するにどれだけお金を払うかどれだけやるかという話で、そのところが農水産物は出たときにだけやるというのがあって費用がかかっているのかなと思います。検査といっても、出たものをやるか、かかった人をやるかでは考え方が違うので、リスクコミュニケーションのときに本当は話をしなければならぬ。うちの学生にはそれを言っていますが、次世代をどうするかということは大事かなと思います。リスクコミュニケーターがいるいないに関わらず、私も大学にいますので、食の安全・安心について担当しております、リスクやベネフィット、農薬の話やウイルスの話をした上で、食の安全・安心の話をして試験をしますが、基本的に彼らからのメッセージを受けて、それに返すという形をとっています。自分がどう思っているかシャトルカードみたいなものです。なぜそのようなことをやるかという、結局彼らは父親母親になりますので、そうなった時にちゃんと教えなさいということをお言っております。今自分一人のためで良い悪いではなく、彼らは安い方が良いと思って少々気にせず食べていますが、安いというのはリスクを負いながら食べているわけです。何かあったとしても自分の責任だということをお分かってください、それを自分の子どもだったらそんなことできないという話も大事になってきます。その中で、ノロウイルス等があった時に、どういうものかを当然彼らは勉強で知りますので、手洗いをしないといけないことも分かっています。そういったリスクコミュニケーターでなくてもできることは沢山あるので、そういうことをやっていることを皆さんがそれぞれの団体でこんなことをやりましたということをお言えればいいかなと思います。実は、学生にこの計画の古い方を紹介しております、農政局のものも紹介しています。インターネットを紹介すると最近の若い人達はものすごく喜びます。一枚の紙にインターネットのリストを載せると、そこを見ると色々書いてあるということで、その中でコミュニケーションしたい時は言ってきたさいということで、誰でもできることかなと私自身は思っています。それが1人に伝わって、さらに5人に伝わると、100人だったら500人になるので、そういうことが重要なポイントではなかろうかと思っております。リスクコミュニケーションのことも今様々なところに書かれていますので、彼らはインターネットをしているのですが実際にそれを調べるということを中々していない、自分の都合のいいことだけを調べていますので、それをこういう風にしたら出てくるというのを教えるとかかなり喜んで調べているみたいです。それが自分の興味とリンクして調べると出てくるのかなと思います。私のところの学生が公務員等になっていますが、そういう人達が次の人に教

	<p>えるということも大事かなと思います。岡山は公民館というのを世界の英語にした土地でもありますので、公民館というのは大事かなと思います。生涯教育ということがリスクコミュニケーションともものすごく関係あると思って聞いていた次第です。生産者の話も農学部の子は当然知っていなければなりません、中々自分達は消費者の観点でしか買っていないところがあるので、そこを分かるようにこのリスクコミュニケーションが様々な立場でできるのではないかと思います。</p>
生活衛生課	<p>様々な方面からのご意見をいただきましてありがとうございます。リスクコミュニケーションというのは10年しか経っていないということで、中々十分に定着していないことがあります。食の安心の部分、不安を払拭していくということについて、10年前にやっと行政が気づいたことになりますので、それまではそんなことを少しも考えていなかったということで、行政の方が気づいてやっと重い腰が上がって10年経って今の状況になっていますので、このことを引き続き進めていくことが大切であると考えております。そのために皆様のご協力をいただきながら様々な事業、計画を進めていきますので今後ともよろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>様々な立場からお話をいただきましたので、県との繋がりだけでなく、横の繋がりもできるともっと良い活動ができると思います。</p> <p>以上で議事を終了します。</p>